

富岡市長賞 金賞

納税で育む明るい社会

南中学校 3年 下山 千里

「わぁ、本がいっぱい！」

幼い頃、初めて行った図書館で私は大きな喚声を上げました。本の多さにとても驚いたのを今でも鮮明に覚えています。それとともに、「こんなにたくさん本、誰が買ったの？」という素朴な疑問が生まれました。

不思議に思い、母に尋ねてみると、「ちさとはまだ小さいからわからないかもしれないけど、ここにある本は、『税金』っていうお金で買われているんだよ。」と教えてくれました。幼かった私は、税金という言葉すら知りませんでした。そんな私に母は、「税金はね、皆が協力して出し合っているお金なの。こうしてたくさん本を読めるのも税金のお陰。ここにある本は皆のものなんだから、大切に扱ってね。」とさらに詳しく教えてくれました。そのとき私は、「皆で協力すればこんなにも大きなお金になるんだなぁ。税金ってすごい！」と思いました。

中学生になった今、ニュースや新聞の中の税金は、決して良いものとは言えません。だから、「税金なんて何の役に立つのだろう。ただ単に取られるだけ」と思っている人は、少なくはないはずです。

でも、想像してみてください。もしも税金がなかったら、火事や事故にあっても、消防車や救急車は来てくれない、国じゅうにゴミがあふれかえり、道路はガタガタ、学校もボロボロ。これが、税金のない世界です。まるで私達が今、住んでいる世界とは別世界のように感じられます。

私は毎日、街灯のついた明るい道を通って帰宅します。暗い道を通るのは、とても怖いし、何より危険です。私がこうして安心して安全に帰宅できるのは、税金のお陰です。

そう考えると、私は今まで数え切れない程たくさん税金に支えられて生きてきました。

でも、今度は私がこの国を担い、支える立場になります。そのときは、一人の納税者として、力強くこの国を支え続けていきたいです。

また、税金を納めるだけではなく、「未納税者」と呼ばれる人を一人でもなくしていかなければなりません。そして、今もこれから先もずっと「税金」というこの素晴らしい制度を私達の手で、守っていかなければならないのです。だって、税金は「わたし」と「みんな」を繋ぐ唯一の架け橋なのだから…。